

「日本を飛び出した若者の成功例」

中川 智明

<インドネシアに飛び込む若者たち>

日本の社会経済に閉塞感が漂い既得権が問題となる中、日本の若い人達の中には海外での就職や起業を目指す人もいます。インドネシアで業務を行う私の周りでも最近目にすることがあります。

海外での就職や起業という「アウェー」の戦いをするよりも、日本で「ホーム」の戦いをした方が、様々な点で圧倒的に有利な点が多いものです。それでも、インドネシアという文化的にも隔たりの大きい国に飛び込むことを選択したのだと思うと、以前の自分を見るようで純粋に応援したくなります。

彼らはビジネスの知識や経験も十分ではない無防備な状況でインドネシアの特にIT業界に飛び込み、関係するインドネシア人と接点を持つべく努力しているようです。

<ビジネスパーソンとしては日本とインドネシアのハーフ>

製造業という比較的チームプレーの傾向が強い多くの日本企業の進出においては、日本人駐在員は日本本社や他の日本人駐在員との関係を重視し、外部のインドネシア人との接点を広げてゆくような動きはあまり見られないのが一般的です。しかし、インドネシアに飛び込んでくるIT系の若者の成功例におい

ては、インドネシア人の世界に飛び込み、ビジネスパーソンとしては日本人とインドネシア人のハーフのようなビジネスマインドやビジネススキルもミックスした形で学び向上していく印象があります。

ゴートゥ(ゴジェック)を筆頭の企業として、多くの夢見る若者が前向きにチャレンジ

【ゴジェックのドライバー】

するインドネシアは、IT企業の技術レベルは比較的高く、規制や既得権も日本ほど強固ではないと思われます。

もちろん、ビジネスの成否は運不運もあり簡単な事ではありません。しかし、ジャカルタには閉塞感と既得権で存在感を発揮しにくい日本を出てきた若者がおり、その力は捨てたものでは決してなく、応援したくなるばかりか自分もエネルギーをもらえるような人たちが奮闘していることをお伝えします。



上記の記事は、中国新聞 SELECT「最前線ビジネスサポーター発」にも一部、掲載されました。